

船舶事故調査報告書

令和元年 7 月 2 4 日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	同乗者負傷
発生日時	平成 3 0 年 8 月 8 日 1 3 時 5 9 分ごろ
発生場所	広島県江田島市入鹿鼻北東方沖 安芸俎礁灯標から真方位 1 3 2 ° 1 . 8 海里付近 (概位 北緯 3 4 ° 1 3 . 9 ' 東経 1 3 2 ° 2 3 . 2 ')
事故の概要	プレジャーボート大和は、船外機を前進とした際、海中に入っていた同乗者が負傷した。
事故調査の経過	平成 3 0 年 1 1 月 2 9 日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート 大和、1 . 5 トン
船舶番号、船舶所有者等	2 7 1 - 3 7 5 7 3 広島、株式会社大和
乗組員等に関する情報	船長、二級小型
負傷者	軽傷 1 人（同乗者）
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南南西、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 低潮時
事故の経過	本船は、船長が 1 人で乗り組み、友人 7 人（以下「同乗者」という。）を乗せ、江田島市にある海水浴場沖で主機を停止して漂流中、船長 A が右舷船尾方の海中に入っていた同乗者の 1 人（以下「同乗者 A」という。）に気付かずに船外機を前進とした際、同乗者 A が船外機のプロペラに右足を接触させて右足脛に切創を負った。 同乗者 A は、救命胴衣を着用していなかった。
分析	本船は、漂流中、船長が右舷船尾方の海中に入っていた同乗者 A に気付かずに船外機を前進としたことから、同乗者 A が船外機のプロペラに右足を接触させて負傷したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、漂流中、船長が右舷船尾方の海中に入っていた同乗者 A に気付かずに船外機を前進としたため、同乗者 A が船外機のプロペラに右足を接触させたことにより発生したものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・漂流中、船外機を始動する際は、周囲を確認すること。 ・同乗者は、海中に入る場合、船長にその旨を伝えること。 ・小型船舶の船長は、同乗者に救命胴衣を着用させること。